



工藤十九団長から辞令交付を受ける団員の皆さん

経験活かした活躍望む

市消防団機能別団員辞令交付式

市消防団機能別団員の辞令交付式が、5月16日、市役所多目的ホールで行われました。
式には、新消防団員や関係者ら約50人が出席。
工藤十九団長は「現役世代の団員の補完役を担う機能別消防団員。今回は、45人の応募があった。とても心強く思う」と、期待の意を述べました。
高橋松雄さん(64)＝向村＝は「30年消防団員として務めた経験を活かし、地域のためにやれることはまだまだやっていきたい」と、意気込みました。

新緑の牧野でのびのび

市営牧野で放牧開始

市営長久保牧野での放牧が5月24日に行われ、131頭の黒毛和牛が、新緑の牧野に放たれました。
放牧前には、牛1頭ずつの予防接種や牛体消毒を実施。その後、牧野に開放された牛たちは勢い良く走り回ったり、青草をのんびりとはんだりして思い思いに過ごしていました。
市営牧野では、乳牛や日本短角牛も含め、延べ771頭の牛が11月頃までの間、牧野で生活を送ります。



検査を終えた牛たちは、勢いよく牧野に駆け出しました



漆を植樹する安代漆工技術研究センター研修生

漆資源確保に向け植樹

鞍掛山漆の苗木植栽

漆の苗木植栽が4月29日、鞍掛山西側(渋川)で行われました。
当日は、主催の日本文化財漆協会(東京都台東区)関係者や全国の漆芸家、安代漆工技術研究センター研修生の約30人が参加。市が同協会に無償貸与した敷地に高さ40～50センチの苗木を計600本植えました。同協会の増村紀一郎理事長は「漆文化継承のために、国産漆資源の確保は急務。技術者育成する環境をもつ八幡平市でそれができることは意義深い」と、述べました。

開山と60周年共に祝う

八幡平山開き

八幡平の山開きが5月22日に行われ、本格的な登山シーズンがスタートしました。
今年は、八幡平地域が十和田国立公園に編入されて60周年になる節目の年。山頂レストハウス内では山開き開始式が催され、指定60周年を祝する雰囲気でも賑わいました。
その後、約50人の登山隊が山頂を目指し登山を開始。頂上では、^{あすなろ}山岳会と鹿角市山岳会の代表がピッケルを交換。万歳三唱し、山開きを祝いました。



両市の市旗を先頭に頂上を目指す登山隊



床擦れ防止のための体位交換を体験する参加者

体験で将来の夢を確認

市国保西根病院でふれあい看護体験

ふれあい看護体験が5月11、12の両日行われ、市内外出身の中学・高校生10人が参加しました。
生徒たちは、看護師から指導を受けながら患者さんの足浴や昼食の配膳、寝姿勢の体位交換の方法を体験。実習を通して看護師の役割や仕事の大変さ、楽しさを学びました。
盛岡北高2年の工藤美聖さんは「緊張もあったけど、体験を通してやりがいを感じ、看護師になる思いが強くなった」と夢を膨らませていました。

苗をきれいに植えたよ

寺田小学校田植え体験

寺田小学校の田植え体験が5月20日に、学校近くの水田で開催され、3～6年の生徒46人が参加しました。
児童たちは学年順に、はだしで田んぼに入り、横一列に並んで地域住民の指導を受けながら、苗をひとつひとつ手で植えていきました。
児童の中には、作業に慣れず不安定な足場に、転んで泥だらけになる子も。田植え後「秋の収穫が待ち遠しい」と児童たちは、満面の笑みを浮かべていました。



一列に並んで真剣に田植えをする寺田小の児童

すなっぷギャラリー



幼児の頑張りに多くの声援を集めた「一升餅を背負って歩こう」(5月5日、道の駅にしね)



「八幡平ねりんピックGG親睦交流」からグラウンドゴルフ用品が寄贈されました(4月28日、市役所)



県高校選抜とニュージーランドのロトルアボーイズ高の交流試合(5月7日、市ラクビー場)



「不動の滝祭り」で元気に踊る畑保育園の園児たち(5月3日、桜松公園)



NHKラジオ番組「旅ラジ!」公開収録でリンドウについて紹介する市内関係者(5月19日、道の駅にしね)